

授業概要

東南アジア地域は、隣接するインドや中国との間に古代から活発な交易が行われ、それぞれの文明を摂取して独自の世界を形成した。東南アジアの社会と文化を特徴づける多様性と多元性が、どのように生じたのか。時と空間を経てもたらされた文化が、それぞれの地で取舍選択され、変容をとげ定着していく歴史について講義する。

授業計画

第1回	はじめに
第2回	海のシルクロードの成立
第3回	サンスクリット・ネットワーク 扶南
第4回	アンコール・ネットワーク 真臘
第5回	港市国家 シュリーヴィジャヤ
第6回	アンコール帝国
第7回	パガン王国
第8回	港市国家 バサイ
第9回	西洋近世の幕開け
第10回	島嶼部内陸国家
第11回	ムラユ・ネットワーク
第12回	海峡の分断
第13回	強制裁培
第14回	海峡植民地
第15回	複合社会
第16回	筆記試験

到達目標

東南アジア史に関する基礎的な歴史知識を習得する。歴史の流れの中で、西アジア、南アジア、東南アジア、東アジア地域がどのように接触し、共存してきたか。また東南アジアは、世界史にどのような影響を与えてきたのか、その意義を理解する。

履修上の注意

東洋史概説の履修者がのぞましい。「東洋史特論Ⅰ、Ⅱ」と「東洋史特論Ⅲ」との関係はありません。

予習復習

シラバスに従って基本的な知識を予習しておくこと。講義後は、配布されたプリントと参考文献などを読んで知識を深めておくこと。

評価方法

授業中の態度、授業後に回収するリアクショペーパーの内容が50%、学期末の筆記試験50%として総合的に評価する。

テキスト

テキストは使用しない。授業中にプリントを配布する。参考文献は適宜紹介する。